

# 2023年度 研究活動発表会

日 時：2024年2月9日（金）

会 場：大阪市立天王寺区民センター

時 間：午前10時～午後4時（発表時間各20分）

発表順：8番目（午後の部）

参加者：17名（欠席者6名）

内 容：「木でも草でもないタケ（竹）の不思議」

監 修：若尾隆一

教師役：加藤涼子

生徒役：川口隆二

PC操作：大東齡子

作成者：立本勉



会場 大阪市立天王寺区民センター



<教師、生徒の対話によるインターPRIテーション>

「タケの不思議」について、教師が小5の生徒に一緒に学ぼうとよびかけます。

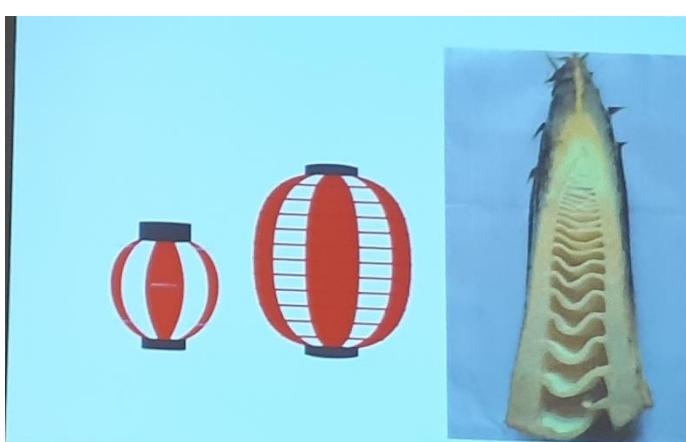
タケは木？それとも草？

木のようで木でなく、草のようで草でなく、イネ科に分類されます。



タケだけにあって、他の植物と違うのは？

タケは、高さ 20m にもなる大型植物で、節間（ふしかん）が中空になる…。



梅雨時のたけのこが 1 日で 1 m 伸びるのは？

ちょうどちんを上に引っ張ると長く伸びる様に、タケの節と節に折りたたまれていた幹が、一斉に伸びるから…。



たけのこが地上に出て背丈が伸び、幹が太るのは 2か月間だけ…。

竹林で良く出会うタケは？

マダケ（真竹）

モウソウチク（孟宗竹）

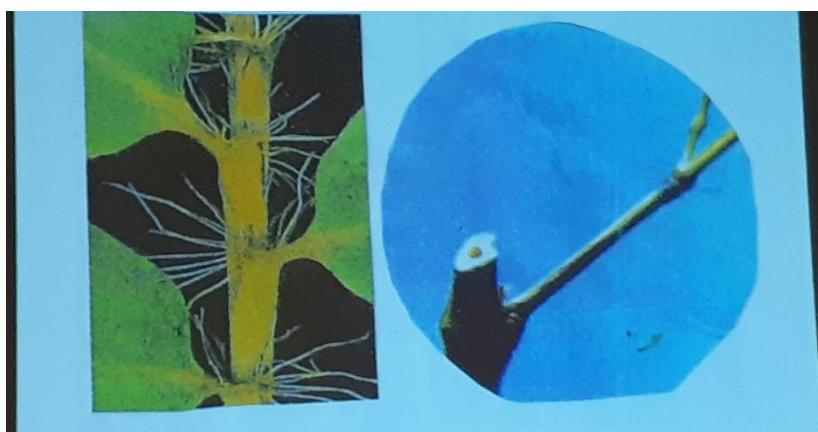
ハチク（淡竹）



マダケ(真竹)

モウソウチク(孟宗竹)

ハチク(淡竹)



マダケ（真竹）

茎から葉っぱが出ているところに  
ヒゲがはっきりとあればマダケ。



洛西竹林公園

モウソウチク

モウソウチク（孟宗竹）

たけのこは背丈が 20mと高くなり、  
太さも 20cm になります。



ハチク 私市植物園

茶筅

ハチク（淡竹）

背丈や太さはひと回り小さく、ロウ質  
多く白っぽく見えます。

“茶せん”にも使われる…。



1960年、マダケに花が咲いたが、何故か翌年に枯れてしまった。

光合成で得た栄養分が根っこに行かず、花を咲かせるエネルギーに使われてしまった為。

写真右は、120年ぶりに咲いたハチクの花



タケとササの違いは？

タケ…幹の皮がはがれてしまう。

ササ…幹に皮を最後までついている。



クロチク

タケが生まれて2年目から段々と黒っぽくなっていく。ハチク似。



変わった幹を持つタケ

(突然変異でできたタケ)

ムツオレチク…地上1mまで節ごとに数回ジグザグに曲がる。マダケ似。

キッコウチク…地上3mまで亀の甲羅に似た幹に…。モウソウチク似。



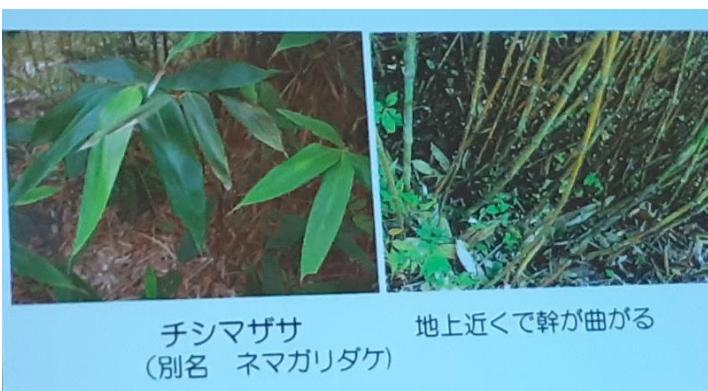
### クマザサ

背丈 1 m、葉の長さ 20 cm と大きい。  
春～夏→葉っぱは青々。  
秋～冬→寒さで乾燥し葉の周りが白っぽくなる。それを隈取りと言い名前の由来に。



### ミヤコザサ

クマザサと同様冬になると隈取りに。  
背丈 70 cm。クマザサよりひと回り小さい。



### チシマザサ

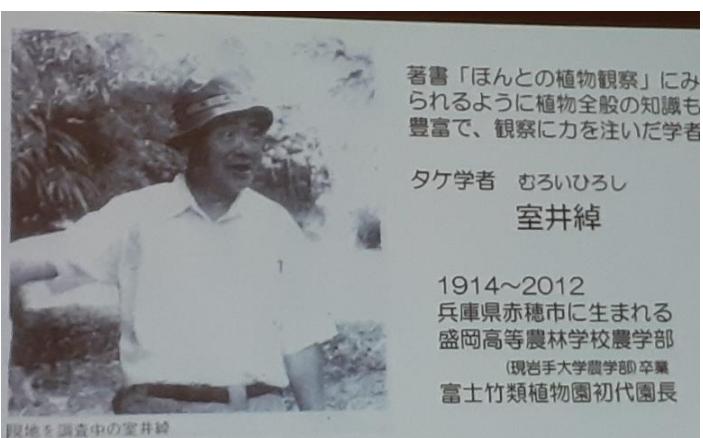
北海道の一番北で発見された。  
地上近くで幹が曲がる…ネマガリダケとも呼ばれます。

## タケに関する二人の学者の紹介



植物学者 牧野富太郎博士

スエコザサは、夫人の名から付けられた。



著書「ほんとの植物観察」にみられるように植物全般の知識も豊富で、観察に力を注いた学者

タケ学者 むろいひろし  
室井綽

1914～2012  
兵庫県赤穂市に生まれる  
盛岡高等農林学校農学部  
(現岩手大学農学部)卒業  
富士竹類植物園初代園長

むろいひろし  
タケ学者 室井綽博士

タケとササの区分の仕方の紹介。